特集

いまきらきらとあさくら。

福岡県のほぼ中央に位置する
朝倉市、筑前町、東峰村の「あさくら」地域。
九州一の大河・筑後川が潤す田園風景は何とも穏やか。
里山に広がる果樹園も季節の恵みを鮮やかに伝えます。
あの豪雨災害から1年。
新鮮野菜やフルーツの里としてだけでなく、
工芸品や歴史遺産、緑豊かな農村での体験を通して
地域の人々との交流を楽しむグリーンツーリズムなど
さまざまな魅力を探しに、あらためて「あさくら」を訪ねてみました。

豊かな水によって農地を潤す三連
水車は「あさくら」を代表する風景

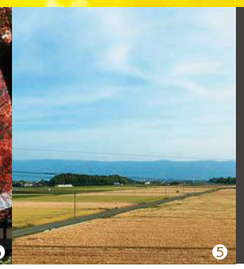
特集

いま きらきらと あさくら。

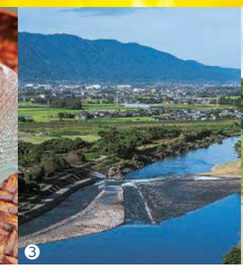
昨年11月に初開催された「第1回キリンクリテリウム」。日本最大の敷地面積を誇るキリンビール福岡工場内で周回レースを行うなど、大いに盛り上がりを見せた

全国の支援を得て、4月に例年より多いアユ稚魚約35万匹を放流。アユ漁解禁に鵜匠の技も冴える

豊かな自然と共生する「あさくら」の今　元気な笑顔が待つ風景へ



❺自転車で回ると気持ちいい田園風景。夏を前に小麦の穂が黄金色に輝く
❻秋月の城下町。秋の紅葉は見どころの一つ
❼肥沃な土壌のハウスで育てられる「博多万能ネギ」。この状態から丁寧に“ネギそろえ”と呼ばれる出荷前の下準備を行って商品に
❽“飛びかんな”や“刷毛目”などが特徴の小石原焼。皿山では春と秋に民陶祭が行われ、多くの人が足を運ぶ



❶「清流の筑後川をお見せできることが感慨深い」とあさくら観光協会会長 井上善博さん
❷あさくらの魅力を笑顔で発信する第36代「女王卑弥呼」の川波菜月さんと水城優季さん
❸1790年、古賀百工の指揮により完成した総石畳の山田堰。現在も、あさくらの670ヘクタールを潤している
❹日本で唯一、黄金川のきれいな水質でしか育たない「スイゼンジノリ」。“川茸”とも呼ばれ300年以上も生産されてきた貴重な食材

風景その1　復興のシンボル「鵜飼い」再び 夏の夜を彩る屋形船

5月20日、待望のアユ漁が筑後川で解禁されました。昨年7月の九州北部豪雨によって大量の土砂が流入し中止されていた伝統漁法「鵜飼い」も、全国からの励ましに応えるように約1年ぶりに復活しました。福岡県内では唯一、ここでしか見ることができない巧みな鵜匠の技と、のどかな川面の風景を楽しめる屋形船。筑後川の清流に乗って静かに漂うその姿は、温泉とアユを楽しむ原鶴温泉ならではの優雅な夏の風物詩です。

風景その2　先人の努力が今を育む 水を生かした豊かな実り

北に筑紫山地、南にびょうぶのような耳納連山。その間を縫うような大河・筑後川がつくる大きな平野。その対比があさくらの豊かな自然を表しています。かつて「筑紫次郎」と称された暴れ川を「山田堰」の建設で治め、堀川用水を開通させ、三連水車などで土地を潤してきた先人たちの努力と工夫が、今や全国有数の穀倉地帯として豊かな実りを育んでいます。

国内では黄金川でしか採れないスイゼンジノリは、秋月藩に守られてきたあさくらのきれいな水の象徴。また、大きな穀物倉庫を囲むように広がる農地で春は小麦、秋は稲穂が並んで揺れる様は、まさに「福岡の食」を支える美しい風景。福岡自慢のおいしいお米、うどんやラーメンなどの麺類もこの田畑があってこそ。その一画には全国に小ネギの文化を伝えた「博多万能ネギ」のビニールハウスが整列していたり、山あいにはフルーツ狩りで人気のナシやカキの畑もずらり。さらにイチゴ「あまおう」やブルーベリー、巨峰など甘くて新鮮な各種果物は地元スイーツには欠かせません。農産物直売所には、採れたての新鮮野菜や旬の果物が毎日所狭しと並べられ、観光に訪れる皆さんに喜ばれています。

風景その3　元気なあさくらを自転車で 誰もが楽しめるイベントも続々

復興を応援しながらあさくらの魅力を楽しむのに、今、注目されているのが自転車。昨年、初開催された自転車レース「キリンクリテリウム」(※1)に「あさくらサイクルフェスティバル」(※2)など、県内外からの自転車愛好者も多数参加。今年も開催されるイベントに熱い視線が注がれています。

あさくらは緑豊かな川沿いをのんびり走ったり、山深い東峰村の小石原焼の窯元を訪ねる陶芸ライドを実践する愛好者がいたりと、自由なアイデアで楽しめる自転車好きには魅力あふれるエリアです。自転車といえばあさくらと呼ばれたい、そんな熱を込めたチャレンジが始まっています。

(※1)キリンビール福岡工場内で開催する日本唯一の自転車レース「第2回キリンクリテリウム」今年は6月2日に開催されました
(※2)「第2回あさくらサイクルフェスティバル」は9月17日に原鶴分水路グラウンドで開催予定

あさくらニュースはwebかわら版で

地域発のイベントやバスツアー案内など元気なあさくらのニュースをお知らせしているのが『あさくら観光かわら版』。観光協会や商工会、道の駅など地元の構成メンバーが自らディレクターとなって、あさくらの魅力をたっぷり発信しています。

あさくら観光かわら版　検索

問あさくら観光協会　☎0946-24-6758　ファクス0946-24-9015

福岡の先駆的グリーンツーリズム。「あさくら」の魅力をそのまま普段暮らしで迎えることが最高のもてなしに

受け入れ家庭で梅の収穫体験

修学旅行の皆さんがサンライズ杷木に到着

入村式で初めて宿泊先のご家庭の皆さんと顔合わせ

国内はもとより海外からの観光客も農村体験を求めてあさくらを訪れています。田舎の親戚を訪ねるような温かな触れ合いが宿泊者の心に刻まれます。一度に180人の受け入れも可能な、地域が一体となって笑顔を作る先駆的なグリーンツーリズムの魅力をご紹介します。

農村の魅力的なコンテンツ

「あさくらは自然体験や工芸、農林業、歴史・文化、そして平和学習まで体験できるさまざまなコンテンツがある上に、温泉も楽しめる。本当に地域で丸ごと豊かな体験ができるんです」と、笑顔で出迎えていただいたのは朝倉グリーンツーリズム協議会事務局長の原野明彦（はらのあきひこ）さん。「普段暮らしのままのご家庭に泊まっていただくんです」。大勢が同じ場所に滞在するのではなく、グループごとに宿泊場所が異なることも魅力。料理好きなお母さんもいるし、地元の歴史に詳しい人もいます。登録している約140軒の家庭は事前に研修を行っていて、受け入れの準備が常時できていることが朝倉グリーンツーリズム協議会の強み。農家の仕事を手伝って、温泉に行って、夕飯を囲んだら、あさくらの景色をのんびりと眺めながら話をする……それぞれの暮らしを楽しみながら体験することで、家族のように農村で過ごす魅力が伝わります。「被災した町を感じてもらうことも大切。今の元気な姿も見てもらえますから」と力強く語る原野さん。あさくらのファンをもっと増やしたいと意欲は尽きません。

朝倉グリーンツーリズム協議会の原野事務局長

歓迎。修学旅行ご一同さま

この日、あさくらを訪れたのは岡山県の中学3年生、184名の皆さん。修学旅行の初日に、早速、入村式で受け入れ家庭の皆さんと対面します。校長先生や生徒代表のあいさつには被災された地域の皆さんへのお見舞いの言葉がありました。受け入れ先とグループごとに顔合わせが終われば、車でそれぞれのご家庭へ。梶原さんのお宅には生徒4人グループが宿泊します。

梶原さんのお宅は杷木にある築150年の木造住宅。梶原さんが明るい笑顔で岡山の"孫"たちを出迎えます。お互いの自己紹介を済ませたら、畑に植えている小梅の収穫を手伝ってもらうことに。運動着に着替えた4人は、梶原さんに教えられて上手に小梅を収穫します。「意外に簡単」「ころころしてる」。枝の間から顔を出し、実を見つけては丁寧に摘んでいく生徒たち。約1時間でたっぷりの小梅が採れました。

梅の状態を確かめて、直売所で販売する商品用に1キロずつ袋詰め。「ぴったり。みんな上手ね！」と梶原さんも感心していました。作業を終えたら温泉に向かいます。途中、昨年の災害の爪痕が生々しく残る寒水（そうず）地区へ。「復興途中の姿も見てほしかった」と言う梶原さんに、「自然の脅威を感じました」と生徒たち。心に町の姿が刻まれます。この景色、ここで暮らす人に触れた経験が生徒たちに"生きた学び"として実ることでしょう。

朝倉グリーンツーリズムの活動は、受け入れる側にとっても楽しい体験。お互いが楽しみながら過ごす、まるで家族のような大切な時間が、あさくらの未来を輝くものにしてくれるはずです。

激しい災害の爪痕を心に刻む生徒たち

自分たちが収穫した梅に笑顔

小梅は傷んでいないかチェックして1キロずつ袋詰め

梶原さんのお宅で談笑しながら自己紹介

梶原さん宅にて記念撮影

丸鶏の薫製作りを楽しんだグループも

あさくらの笑顔に触れて

朝倉グリーンツーリズム協議会会長
矢野公子（やのひろこ）さん

「朝倉市を中心に地域が一体になって農村体験を受け入れできるのが強みです。皆さん、孫を迎えるように楽しんでくれることがうれしいですね」

問朝倉グリーンツーリズム協議会
（あさくら観光協会内）
☎0946-24-6758
ファクス0946-24-9015